

滋賀県の地震

令和 7 年(2025 年)9 月

目 次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	4

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	5
(2)概況	-----	5

3 地震一口メモ

南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）について	-----	6
------------------------------	-------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。
「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。
本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

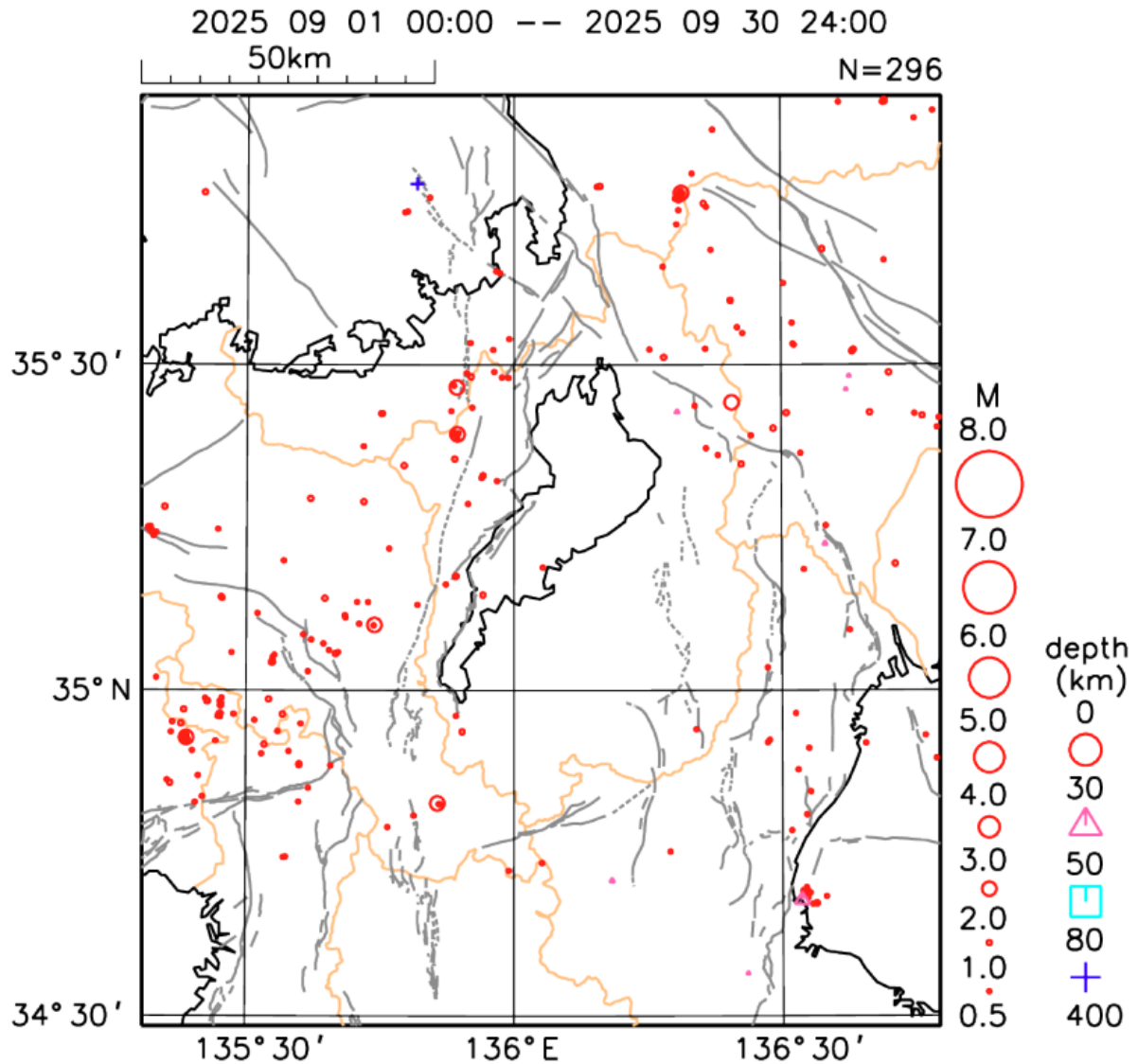
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和7年9月)

(1) 震央分布図



震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。

シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模（マグニチュード）」、形状により「震源の深さ（km）」を表現しています。マグニチュード（M）とシンボルマークの大小、震源の深さ（depth）とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。

図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度（実線部>破線部）を表しています。

滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています（最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません）。

震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

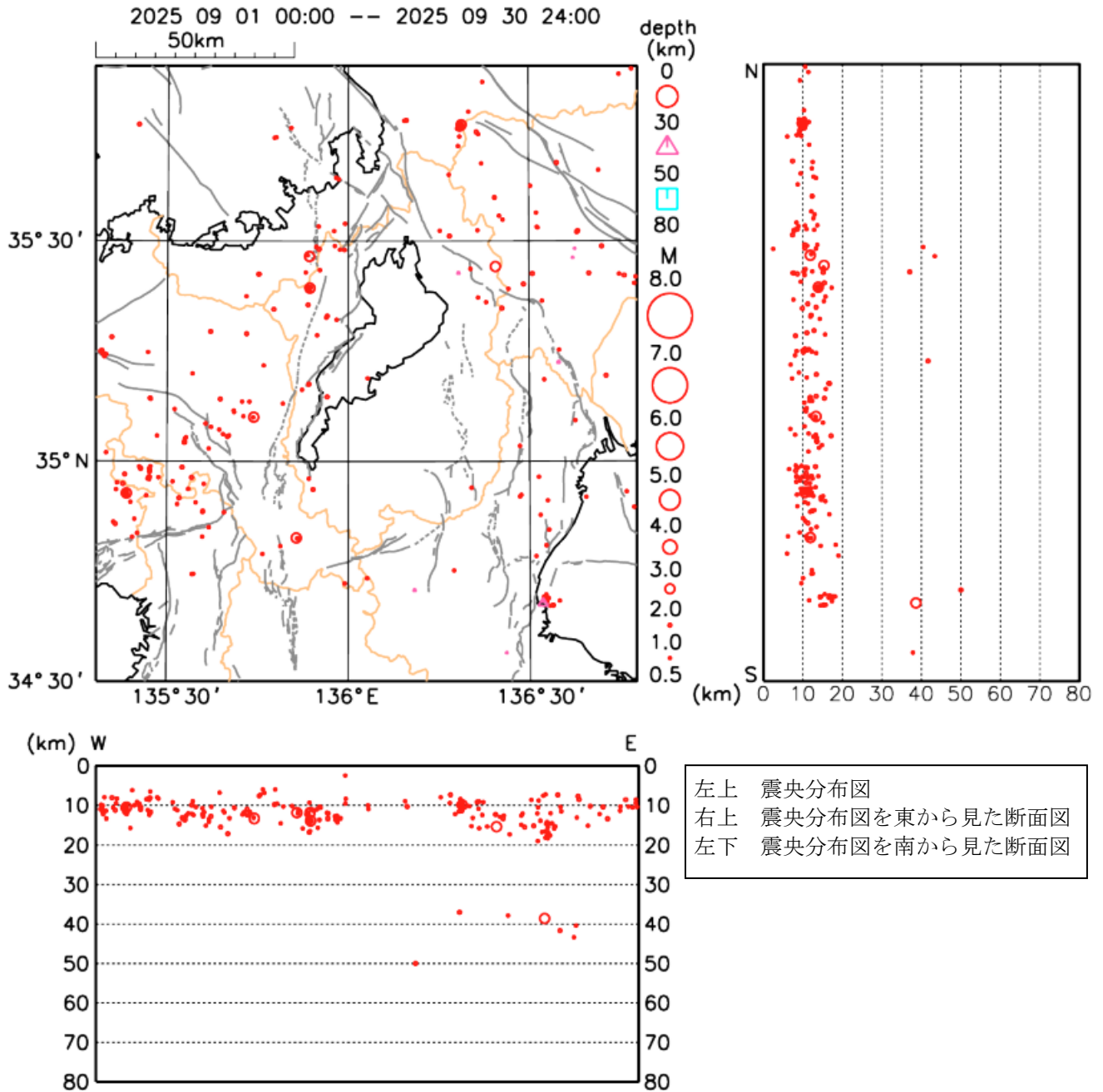
(2) 概況

9月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は9回（前月22回）でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は1回でした（前月1回）。

滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。

7日10時50分 愛知県西部（図の範囲外）の地震（M4.1）：彦根市、長浜市、東近江市で震度1

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時 各地の震度（滋賀県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
-------------------------	------	----	----	----	---------

2025年09月07日10時50分	愛知県西部	34° 59.5' N	137° 15.4' E	39km	M4.1
-------------------	-------	-------------	--------------	------	------

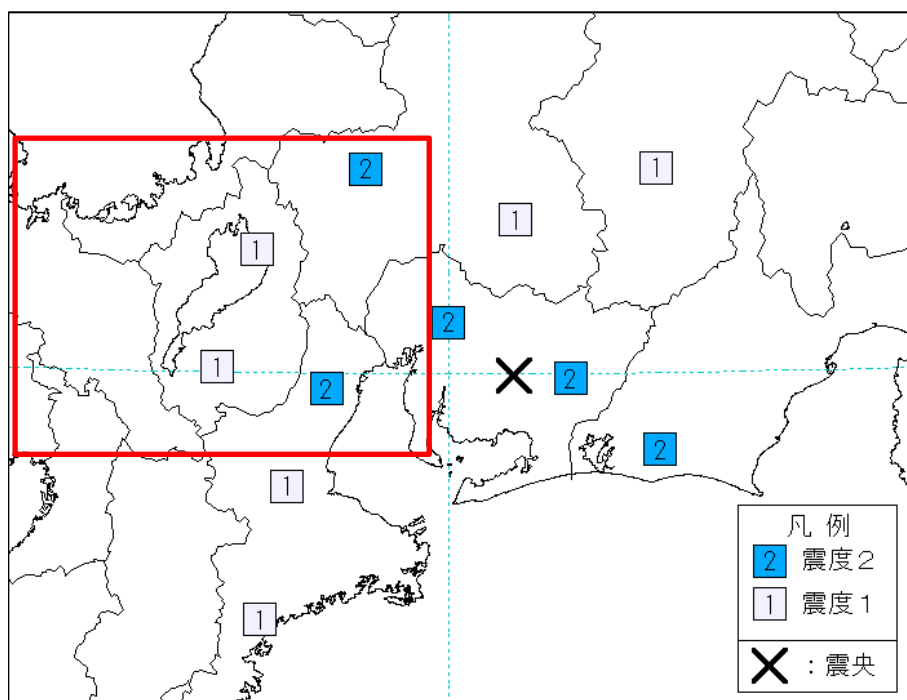
----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1 : **彦根市城町**, 長浜市難波町*, 東近江市市子川原町*

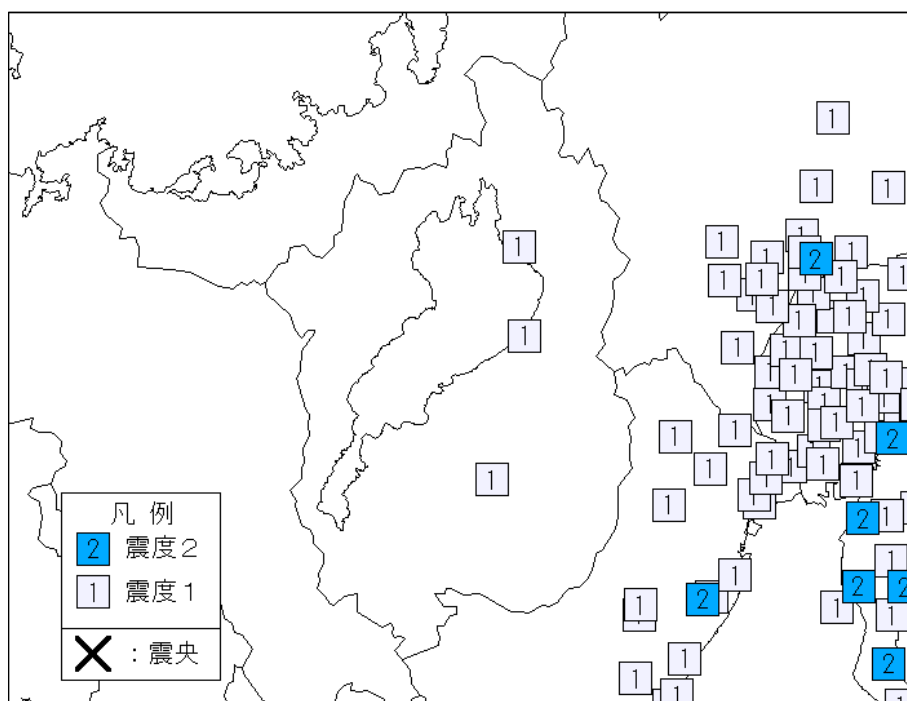
※ **太字**の地点は気象庁の震度観測点、名称の末尾に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布

2025年9月7日10時50分 愛知県西部 (M4.1)



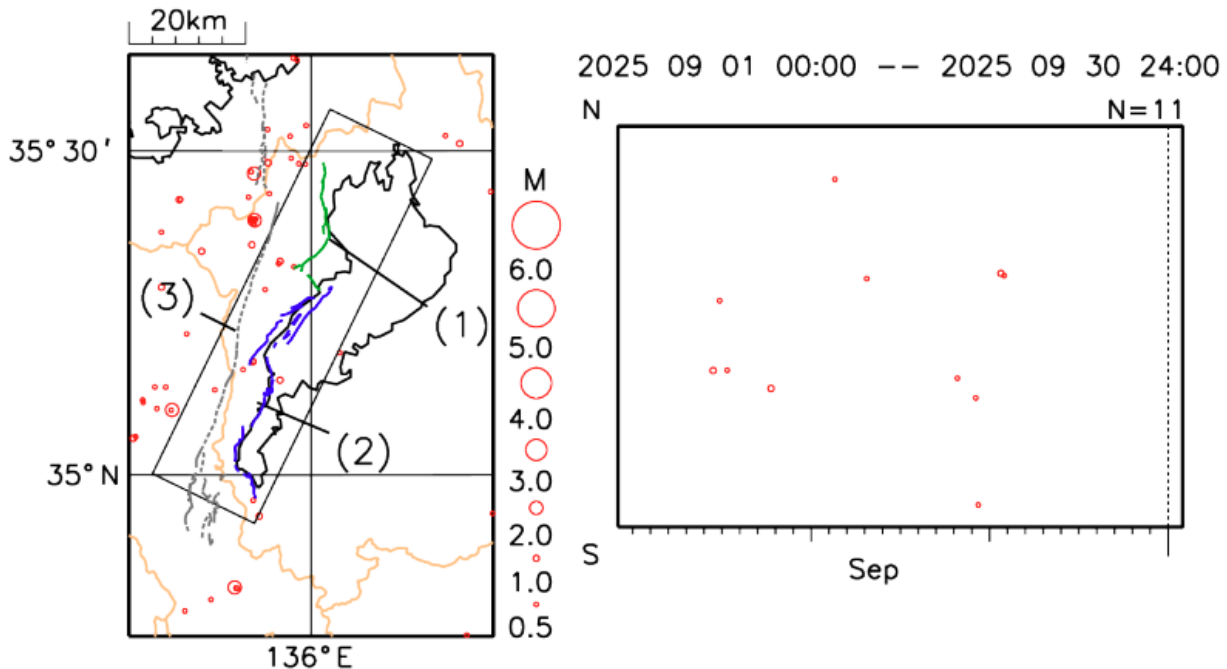
各地域の震度



各観測点の震度（各地域の震度の赤矩形領域内）

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和7年9月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の2つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が1つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1~3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2025 年 1 月 1 日。)

(2) 概況

9 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 0 回(前月 0 回)で、同領域内の地震で震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

3 地震一口メモ

南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）について

地震調査研究推進本部では、主要な活断層で発生する地震や海溝型地震に対して地震の規模や一定期間内に発生する確率を予測したものを「地震発生可能性の長期評価」（長期評価）を行っています。この中で南海トラフでM8～M9クラスの地震が今後30年以内に発生する確率は80%程度（2025年1月1日時点）としていましたが、最新の科学的知見を踏まえて検討が行われ、9月26日に改訂された地震発生確率が公表されました。

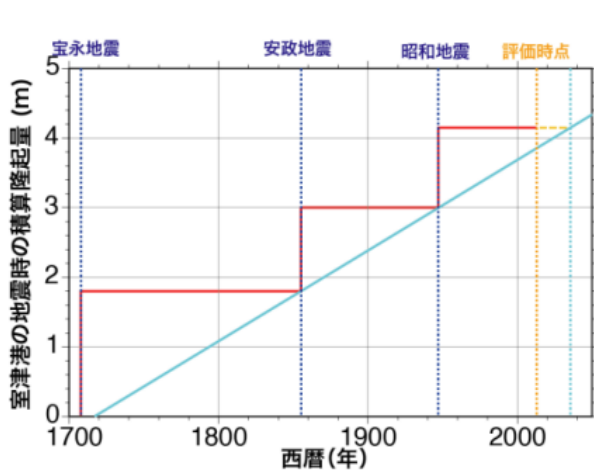
これまで南海トラフの確率は、高知県室津港の地震発生時の隆起量を基にした「時間予測モデル」で計算されていましたが、新たな発生確率計算モデル「すべり量依存BPTモデル」を採用したほか、多くの海溝型地震で使われている「BPTモデル」での計算も行いました。また、隆起量の不確実性（誤差）や計算パラメータのばらつきを考慮して、地震発生確率を範囲^{*1}で表現しています。

新たな地震発生確率は「すべり量依存BPTモデル」で60～90%程度以上、「BPTモデル」では20～50%と2つの値を併記^{*2}することになりました。新しい長期評価では2つの確率があり、混乱するかもしれませんが、どちらの確率でも最も高いⅢランク^{*3}という評価は変わりません。また前回の昭和東南海・南海地震から約80年が経過しており、次の大地震発生の切迫性が高まっているため、地震発生に対する防災対策や日頃からの備えを引き続き確認してください。

*1：発生確率値の70%信用区間を範囲とする

*2：2つのモデルのどちらが適当かは科学的に優劣を付けられないため

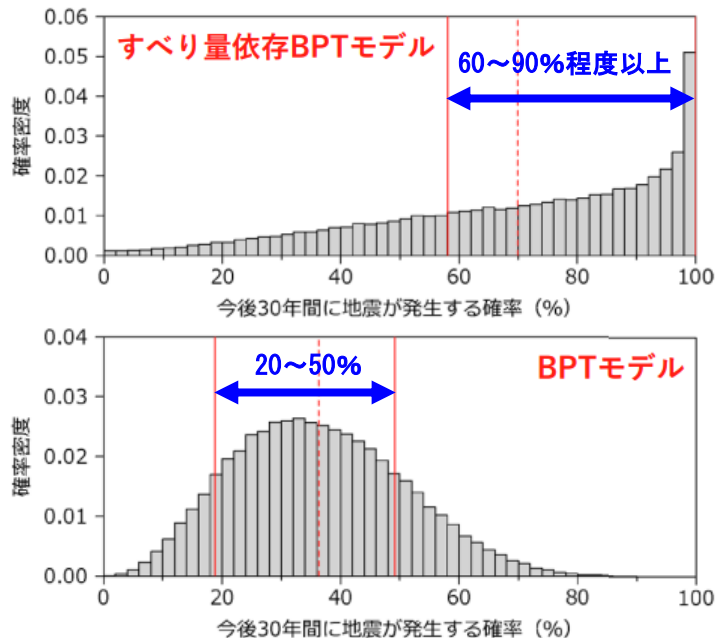
*3：海溝型地震では、確率が26%以上は最も高いⅢランクとする



室津港（高知県）における南海地震時の隆起量と地震発生間隔との関係



隆起量と地震発生間隔が正の比例関係にあり時間予測モデルを適用できる根拠になっている



南海トラフにおける今後30年間に地震が発生する確率の分布（赤実線は信用区間70%の範囲、赤点線は平均値、横軸は%）

「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）について」（地震調査研究推進本部）を加工して作成

地震調査研究推進本部HP 南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)について

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/subduction_fault/#nankai_t

気象庁HP 南海トラフ地震とは

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/nteq/index.html>